

## 第6回千代田区文化財保存活用地域計画策定委員会 議事録

**日時：**令和6年11月8日（金）午前10時10分～12時

**会場：**日比谷図書文化館 スタジオプラス（小ホール）

**出席者（敬称略）：**

[委員]

【学識経験者】

谷川 章雄	山崎 鯛介	瀬戸口 龍一	菊池 健策
田中 晴子	三友 奈々		

【文化財保存活用支援団体】

鈴木 宏昌	西秋 美岐子	三田 雅康	深野 恵津子
北島 敦子			

【文化財所有者】

岸川 雅範

【商工・観光関係団体】

高山 肇	山崎 真理
------	-------

[オブザーバー]

原 眞麻子

[行政委員]

佐藤 尚久	菊池 洋光	加藤 伸昭	高橋 昌弘
前田 美知太郎	江原 達弥	御郷 誠	

[事務局]

古橋 秀介	高木 知己	山田 将之	篠原 杏奈
-------	-------	-------	-------

**配付資料：**

- ・次第
- ・令和6年度委員名簿
- ・資料1 地域計画の構造と検討の流れ
- ・資料2 目次案
- ・資料3 千代田区文化財保存活用地域計画 素案（全文）
- ・資料4 今後の検討スケジュール

- (1) 素案 第6章 千代田区の歴史文化に関する将来像及び4つの柱について
- (2) 素案 第7章 千代田区の文化財の保存・活用に向けた方針と措置について
- (3) 素案 第9章2 拠点施設の整備に向けた方針と措置について

→ (1)～(3)をまとめて、事務局より資料説明

#### 【4つの柱と水辺・自然について】

[谷川委員長]

- ・第6章以降は、p.107の「4つの柱」が前述を踏まえた大きな軸となっている。区民である皆さんの生活や日常と文化財が切り離されないよう、それぞれの視点でお気づきの点があれば教えていただきたい。

[三田委員]

- ・千代田区の歴史的背景や歴史文化の特徴がよく整理されており、これだけで副読本ができるレベルと考えている。
- ・私が居住している岩本町では、神田駅の東側などで古い家が無くなり、駐車場だらけになっている。それを止めることはできないが、広い意味では「神田川」も江戸城の外堀であるため、範囲としてはカバーできるのではないか。
- ・バードウォッチングが趣味の友人によると、四谷から飯田橋にかけて41種類もの野鳥がいる。そのような水辺や緑を守ることの一つの文化であり、自然と親しむという価値は十分にあると思われるが、千代田区の文化財として「天然記念物」や「無形文化財」が弱い。江戸城の“城”ではない部分として、外堀の自然環境なども守っていききたい。水質改善などは進められているが、文化財と結びつけながら連携していけると、より良いのではないか。

[谷川委員長]

- ・本計画の作成にあたり、千代田区の歴史的背景をどのように叙述していくかをこれまでに議論してきた。年代的に整理するだけでは、それを貫く考え方が見えなくなるため、最終的には事務局に「柱」を整理いただいた。千代田区の歴史文化の特徴を整理した資料は貴重であるため、本計画は非常に面白い読み物になると期待している。読み手の生活実感に訴えるものにしたいという思いがあり、「副読本」という言葉はありがたい。
- ・水辺や緑についても、p.107の柱のうち、(1)『「千代田の城」江戸城の価値を探り、魅力を伝える』や(4)『上書きを続ける都心の「記憶」と「記録」を守り、活かす』のなかで「景観」が対象として上げられているため、もう少し強調しても良いのではないか。「景観」というと、古いビル群などをイメージしてしまうが、都市の中の自然も非常に重要である。人間が管理しているという側面はあるが、特に千代田区では江戸城や外堀が自然との接点になっている。

[高山委員]

- ・江戸の町は、“川の手”文化で発展してきたという経緯がある。今後の発展も考慮すると、観光を含めた舟運など、川を利用した取組みにも伸び代があるのではないか。お堀については「江戸城」に含まれるが、もう少し川や橋についても注目していただきたい。

#### 【4つの柱とその関わり方について】

[北島委員]

- ・文化財の保護委員として、まさに弁慶堀や真田堀に関する調査を行っており、建造の歴史なども含めて非常に興味深いと感じている。「4つの柱」については、抜け無く整理されているが、それぞれの柱が序章5の「文化財の保存・活用に関わる人々」における人々に強く訴求するのか整理していくと良い。文化財の調査にあたって、広く浅く実施するのか、ある程度の専門性を持たせるのかは絞り込んだ方が良い。

[谷川委員長]

- ・おっしゃる通り、「4つの柱」はそれぞれ関わり方が異なり、地域によっても変化する。いずれにしても、それぞれの柱が最終的に、それに関わる人々に繋がらないと具体性がないため、非常に重要な指摘である。

#### 【都心の「記憶」と「記録」について】

[深野委員]

- ・素案の内容が、以前よりも格段に整理されており、目指すべき方向性が見えてきた。しかし、その実現に向けては、現在の人員体制が残念ながら十分ではないと思われる。例えば、柱の（4）では広報やITの能力が必要になる。先日、英国大使館で発掘された遺跡なども、「記録」としてバーチャル映像等に残し、当時の生活などが再現できると小中学生にも分かりやすいのではないか。
- ・地価の高騰や相続税の問題により、看板建築や古書店街などが次々と失われている。このような大切な資源を守るために、どのように助けていくのかというコンセンサスがあっても良いのではないか。

[谷川委員長]

- ・都市の上書きにより、古い歴史が消されてしまっている現状がある。遺跡が発掘されても、その後に建ったビルを見ると、遺跡がここにあったという「記憶」自体が消されてしまっている。例えば、シンガポールでは、新しいビルの入口に古いビルの写真が貼ってあり、昔の姿を伝えようとしている。東京では、「高輪築堤」という明治5年の鉄道の遺跡がほぼ完全に残っていたが、その一部しか保存できなかった。例えば、そこを歩く

- 人々がスマホなどを通してその情報が得られると、「記憶」を伝えていくことができる。
- ・ もう一つは、町の景観をどう維持していくのか。建造物は一つ一つの重要性で評価していくが、町全体の景観維持については、文化財の指定では追いつかない現状がある。放っておくと、櫛の歯が欠けるように町の景観が失われてしまう。

### 【オーバーツーリズム対策について】

[深野委員]

- ・ 私が居住している秋葉原は、再開発等で賑わいを見せている一方で、オーバーツーリズムによる環境や治安の悪化が起きている。そういった問題からも文化財を守っていかなければならない。

[谷川委員長]

- ・ オーバーツーリズムも大きな問題であり、地域計画でも少し考えていかなければならない。我々文化財側は、保存・活用できればそれで良いと思ってしまうが、それがオーバーツーリズム等を生み出し、実際に生活している方々に迷惑がかかっているのであれば考えものである。一方で、地域に閉じた計画であってはならないため、悩ましい。

[高山委員]

- ・ 先日、神保町で第64回の「神田古本まつり」を開催し、おかげさまで大勢の方々に来訪いただいた。一方で、祭りの開催にあたっては、歩道にも露店を出しているため、歩行者が迷惑しているのではないかと心配している。現在は、警備員に交通整理をお願いしながら、地域の皆さまには事前に周知し、ご理解を頂くための努力をしている。オーバーツーリズムに対しても、やはり地域の皆さまにご理解を頂き、一緒に地域を発展させていくという姿勢が大事である。なかなか明確な解決方法はないが、引き続き努力を惜しまないでいきたい。

[山崎委員]

- ・ 千代田区の観光協会としても課題を認識しており、一番は春の「さくら祭り」である。千鳥ヶ淵の緑道に国内外から大勢の観光客が訪れるが、武道館での入学式や卒業式などの開催と重なると、特に九段坂周辺が大変混雑する。現在は、警察や関係者と連携を取り、九段下から半蔵門方面にかけての交通規制や、周辺のマンション等への挨拶など、できる限りのことはしている。

### 【文化財に関する案内や表示について】

[山崎委員]

- ・ 周知や広報については、千代田区の歴史や文化財に興味がない観光客もいらっしゃるた

め、その層に対し、文化財の取っ掛かりに触れさせることが私たちの役割であると認識している。まずは知っていただき、そこから深く理解していただくためには、そのファーストステップが重要である。

[谷川委員長]

- ・文化財に興味を持ってもらうための入口については、これまでも皆さまから様々なご意見をいただいている。これは、区内の在住者や在勤者だけでなく、過去に関わりのあった人も含めて、できる限り広く対象にしていくべきという考え方に繋がっている。地域に閉じた計画ではなく、外に開いていく計画を立てるという考え方が出発点になっているため、観光と文化財の繋ぎ方については上手く考えなければならない。

[鈴木委員]

- ・お城が中心の千代田区ではあるが、一般の居住者はあまり文化財や歴史に興味を持ってくれない。その上で、皇居の清水門や田安門などを見ても、案内板が難解であり、正直読むのが嫌になってしまう。子どもたちにも分かりやすくなるよう、親しみやすいような方法を取り、まずは歴史への興味を持たせることが重要である。
- ・現在は、時代劇などの放送が非常に少なくなっているが、千代田区の「南町奉行所跡」や「北町奉行所跡」と関連した「大岡越前守」や「遠山の金さん」の情報を大きく表示してはどうか。

[谷川委員長]

- ・町を歩いていても、ここが「南町奉行所」だった歴史は、現在のビル街からは想像することができないため、その繋ぎは考える必要がある。
- ・分かりやすさの視点では、学校教育との関連がある。千代田区の子どもたちに対して文化財を分かりやすく伝えていくために小学校がどのように関わるべきか、本日欠席の須藤先生に次回以降で伺っていきたい。

[西秋委員]

- ・生活者の視点においても、この50年で町は大きく変わり、多くの商店が無くなった。所有者が亡くなるか、引越されるか、売られてしまうか、といった形で町自体が無くなっていっている。マンションに建て替わることもあるが、他地域から来られた居住者の多くは、町会には参加していただけないことも課題である。文化財の案内についても、大きく表示して次の世代に伝わっていくと良い。

[谷川委員長]

- ・p.108の「探る」、「伝える」、「守る」、「つなぐ」の4つのステップを具体的にどのように

実施していくのかという議論に着地させる必要がある。町が更新されていくとそこに住む人も変わってくるが、そのなかでどのように伝えて、繋いでいくのか。これは都心における文化財の保存・活用の課題として、おそらく近隣区でも同様の問題を抱えている。本計画は都心区では初めて作成されるため、東京都全体の大綱と併せて、近隣区の参考になる。区として問題をきちんと理解し、それをどのように解決させていくのかを十分に盛り込む必要がある。非常に難しい問題であるが、今後の10年間では、更に変化が加速していく可能性を見越していく必要がある。

### 【祭礼文化や出版文化について】

[岸川委員]

- ・千代田区の祭礼は、江戸時代から引き継がれたと言われているが、かつての祭礼は現在とは異なり「山車」が出ていた。その山車は、現在は地方に散っているが、文化財の保存・活用としては山車の復興も一つの方法である。「伝統」というものは、次々に変化しながら創造されていくものであり、江戸時代には山車の祭りだったものも、神輿の祭りへと変化しながら現代までに続いている。歴史的な文化の継承のためには、伝統を作り上げていくことも重要ではないか。事例として、赤坂氷川神社には山車人形が残っており、山車を復興させている。また、神田明神においても区の指定文化財である山車人形が2つ残っている。神社側としては、様々な関係者と連携し、江戸の祭礼文化を千代田区の誇りとして盛り上げていきたい。
- ・私は観光協会の理事も務めているが、観光においては「出版文化」も重要である。特に浮世絵文化は、現代の漫画にも通ずるところがあり、現在の千代田区においても小学館、集英社、文藝春秋、角川などの代表的な出版社が所在している。

[菊池委員]

- ・文化を守るということは、山車などの有形の文化財だけでなく、それを使いこなす「人」を守ることに繋がる。祭り行事に関しては、人の行為や仕草なども広く対象になってくるのではないか。また、山車人形についても、単体で完結するのではなく、その職人などにも繋がるため、対象は幅広く捉えていく必要がある。

### 【文化財に関する若い世代への発信について】

[田中委員]

- ・歴史文化をどのように伝えていくかという課題に対しては、それを得意とする人が重要である。表示の分かりやすさと美観のバランスは難しい問題であるが、例えば、スマートフォンでスポットを巡るツールの活用や、美術館の展覧会に関する小冊子の提供などが行われている。若い世代に合う形で伝えていくためには、それが得意な人と上手く繋がる必要がある。文化財の活用を通じて、その仕組みが出来ていくと良い。

[谷川委員長]

- ・おっしゃる通り、歴史文化に興味がある人は年配であることが多いため、IT や VR などに関しては手も足も出ない状況が多いかもしれない。一方で、例えば、近年の博物館では、映像などを積極的に活用した発信や、アートを組み合わせた展示なども行われている。そういった技術を持っている人たちと繋がる必要がある。

[瀬戸口委員]

- ・専修大学においても、「さくら祭り」の時期は入学式などと重なってしまい、大勢の人々が武道館に向かっていく。大学として様々な案内を発信しているが、なかなか守ってもらえず対応が難しい。
- ・「神田古本まつり」に関連すると、近年は学生と地域の繋がりが希薄になっている。活動が大学内に留まる学生が非常に増えており、残念ながら町になかなか行かない。時代劇の話も、最近は授業で「水戸黄門」や「遠山の金さん」などが伝わらないと聞く。時代劇の放送が少なくなったことや、核家族化の進行などが背景として考えられるが、このような前提の認識がなく難しいことがある。そういった意味で、「繋ぐ」や「守る」といった部分に関しては、若い世代の考え方なども大きく変化していることも考慮しなければ、「文化財」という概念すら無くなってしまわないかと考えている。

[山崎副委員長]

- ・千代田区の文化財として、何を誰が大事にしていくのかが重要になってくる。また、地域やエリアでどのように繋いでいくか考えていく必要もあるが、従来の考え方ではなかなかアイデアが出てこない可能性もある。現在の状況をよく理解しながら、そこに歴史的な要素を重ねていくことが重要である。
- ・例えば、神田神社からニコライ堂まで歩いてみると、文京区と千代田区の区境や坂なども含めて様々なドラマがある。また、神田神社やニコライ堂、聖橋なども全て震災復興である。そのように見ていくことで、若い世代にも繋がるストーリーのきっかけになるのではないかと考えている。

[事務局：山田主任]

- ・具体的な施策については、今後、事務局でも検討する必要がある。文化財の表示に関しては、多くの情報をどのように統一して発信していくかと、観光分野との連携が課題である。
- ・防災関連も大きな課題である。発災時には人命を優先したうえで、文化財の被災状況を確認しなければいけないが、その情報を誰が拾い上げるのかという仕組みも本計画の中で考えていかなければいけない。

## 【歴史文化に関する将来像について】

[事務局：山田主任]

- ・今回はキーワードを上げながら、将来像の方向性を整理したが、先ほどのご意見で「自然」といった視点が入っていないことが確認できた。将来像を整理するためのキーワード等について、ご意見があれば伺いたい。また、本日の意見を踏まえて、素案の最終的な書き込みを実施していく。出来上がった修正版については、委員の皆様にも赤入れいただくことを予定している。スケジュールとしては、年明け1月頃に共有し、再度調整した案を2～3月頃に本委員会を開催して最終確認いただく。そのため、盛り込んだほうが良いキーワードなどは現段階でヒントを頂けるとありがたい。

[谷川委員長]

- ・将来像についてコメントは難しいかもしれないが、本日の議論のなかで、「水辺」や「緑」、「景観」、「町並み」など、町が変化する中でも地域にとって大切したいものは確認できたのではないかと。事務局で改めて整理していただき、再度議論する形で進めていきたい。

## 【計画の進行管理について】

[三田委員]

- ・色々な議論を経て、文化財行政の仕事量が増えたと認識している。新たな収集なども始めていくにあたり、人員や収蔵庫が圧倒的に不足している。すぐに博物館を作ることは難しいが、そこに向かって何をしていくのか、本計画を作った後も継続的に議論ができる場を作ることが重要である。

[谷川委員長]

- ・行政計画として、きちんと履行されているのかはチェックしていく必要がある。実際に、例えば、江戸城の保存管理計画において定期的な打合せの実施を提言したが、なかなか行われていない。同様の自体が起きないように、本計画の中にも盛り込み、実行することが大事である。

## 【行政委員・オブザーバーよりコメント】

[子ども部：加藤参事]

- ・子ども総務課では、子どもを対象とした事業を行っていることから、「4つの柱」は全てに当てはまると認識している。授業を通して子ども達にどのように伝えていくのか、お祭りにどのように参加してもらうかなど、担当部局として考えていかななくてはならない。
- ・その中で、教育における区内文化財の活用については、教員や区職員が意識を持って参加していくことが非常に需要である。例えば、中学校の教育要領では、職場体験が義務づけられているが、なかなか協力を得られていないため、教育委員会が事務局となって

体験可能な場所を探していくことを進めている。実務に則った形で皆さまと連携しながら、できることをやっていきたい。

[商工観光課：安田氏（高橋課長代理）]

- ・文化財は観光のキラーコンテンツとなるが、確かに、国や区、団体による案内版の書き方は統一されていない現状である。一方で、国の方からは千代田区の情報を見たいという要望もあり、文化財事務室で対応いただいているところである。国も考え方も変わってきているため、千代田区がリードしながら進めていくと良いのではないか。

[景観・都市計画課：前田課長]

- ・景観・都市計画課としても、サイン計画等については重要な指摘として受け止めさせて頂きたい。また、全体的な話では、文化財をつなぐことの重要性だけでなく、文化財が人をつなぐという重要性も改めて認識させていただいた。今回の学びを景観・都市計画にも活かしながら、文化財担当とも連携していきたい。

[地域まちづくり課：江原課長]

- ・p.128の「関連文化財群」は、街並みなどを「群」として守っていく考え方であるが、まちづくりにおいては、どうしても位置づけが建物単体などの「個」になってしまっている。例えば、先ほどの古書店街なども、「群」として守るという位置づけを明確にした上で、具体的に何を繋ぐのかという視点が重要である。千代田区だけでなく、国や東京都も含めて課題意識を共有しているため、地域の色々な声を聞きながら、まちづくりのアプローチからも実践できるような環境を作っていきたい。

[企画課：御郷課長]

- ・先ほどの祭礼文化について、今年も赤坂氷川祭を拝見したが、いくつもの荘厳な山車がまちなかを賑わい歩くようなお祭りは、神輿文化が主要な関東では珍しい。また、法被を見ると、企業等が参加されている様子も見られる。こういった祭礼や山車を維持していくためには、技術の継承も非常に重要であると認識している。
- ・今年10月の樋口区長と小池知事による意見交換会では、祭礼文化や出版文化の話題があり、神保町や秋葉原の活性化について都と連携していくことが示されたばかりである。引き続き、都と連携しながら継承していきたい。

[東京都：原]

- ・防災については、区内での対応のほか、近隣市町村や東京都が救済に入るシステムを計画としては持っている。東京都としても、消防庁や防災部局と協議しながら、文化財保存活用大綱において防災体系を明示できるよう準備している。防災は広域な協力体制が

重要であり、東京都が果たす役割は大きいと認識している。

- ・千代田区の特徴として、素案 p.14 における「文化財の保存・活用に関わる人々」が、地域住民や外部のファンだけでなく、企業や大学もその一役を担っている点がある。その中で、各地に所在している神田明神の山車は、そのまちの祭りのシンボルとして、地域の人が誇りに思っており、世代間交流や地域交流に繋がっている。
- ・千代田区には、官公庁が多く所在していることも、東京都としては大きな視点である。千代田区の責任として、国には様々なお願いをしていかなければならない。文化を中心に世代交流や地域交流、企業間交流、が実現することで、広域行政である都としても地元につながる事ができると嬉しい。

## 【その他】

[山崎委員]

- ・千代田区観光協会主催のイベントについて、チラシを配布させていただいた。これは、環境庁の補助事業として文化財を活用したものであり、ぜひ皆様にもお知らせしたいと思い、共有した。千代田区や環境省の協力のもと、皇居外苑の北の丸公園を一部貸し切りにし、旧近衛師団司令部庁舎などで、旧家・三谷家の浮世絵が展示される。観光と文化財の繋がりとして、モデルケースになっているのではないかと。

以上